

岡崎市中央図書館大量アクセス事件

- 岡崎市立図書館のホームページに対し、自作のプログラムで**機械的に大量**のアクセスしたことによりサイトが利用できない状態にしたとして男性が逮捕された事件。
 - ・ 男性の目的はサイトの情報を効率よく得るため
 - ・ 男性は「大量」にアクセスしているつもりはなかった
- 実際、男性が使用していたプログラムは常識的なものであり、むしろ図書館のソフトに欠陥があった。

この事件は犯罪だったのか？

- 男性の罪状は業務妨害罪、実名報道もされている
 - ・ 過失ではなく**故意**であったということ
- なぜ故意が認められたのか（以下引用）

『コンピュータに詳しい技術者なので、リクエストを大量に送りつけたら、図書館のサーバに影響が出ることを予想できた。事実、まったく予想しなかった訳ではなく、少しは影響が出ることを予想していたはずだ。それなのに、リクエストを大量に送りつけたので、「故意があった」ものと判断した。』（librahackより）

警察が軽率な判断で逮捕してしまったことが問題である

- 男性側が一方的に罪に問われたため、この事件はインターネットを中心に議論された
- 警察の捜査に専門家がいたら男性の行ったことに問題がなかったことはすぐにわかったのではないか

参考

基調講演 “Librahack”事件を総括する（高木浩光）

Librahack 岡崎図書館事件まとめ（容疑をかけられた男性）